

平成28年 滋賀県の労働災害発生状況



平成29年4月
滋賀労働局

労働災害件数は4年連続減少

～ 労働災害件数は微減も 死亡災害は大幅増加 ～

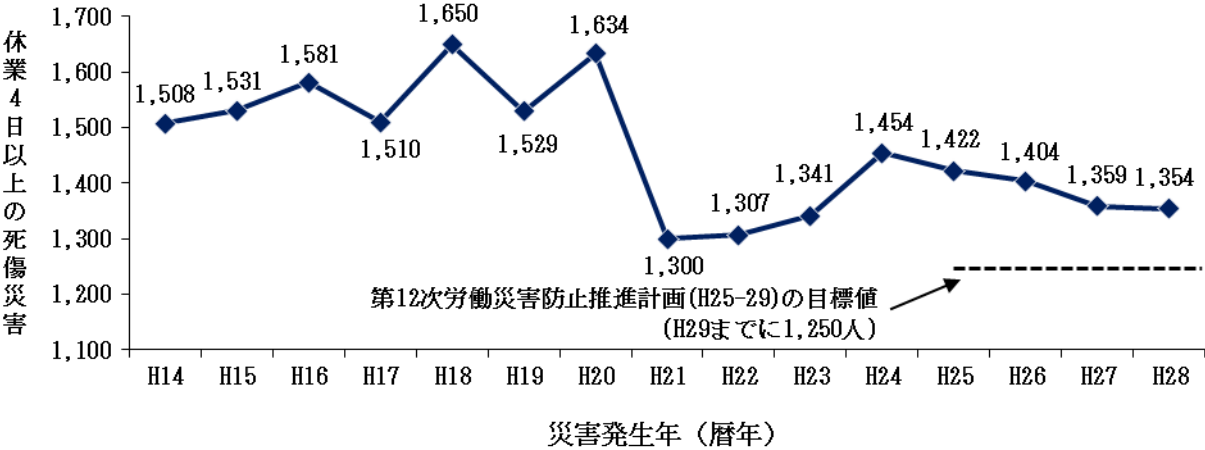
1 概況

① 休業4日以上之死傷災害発生状況

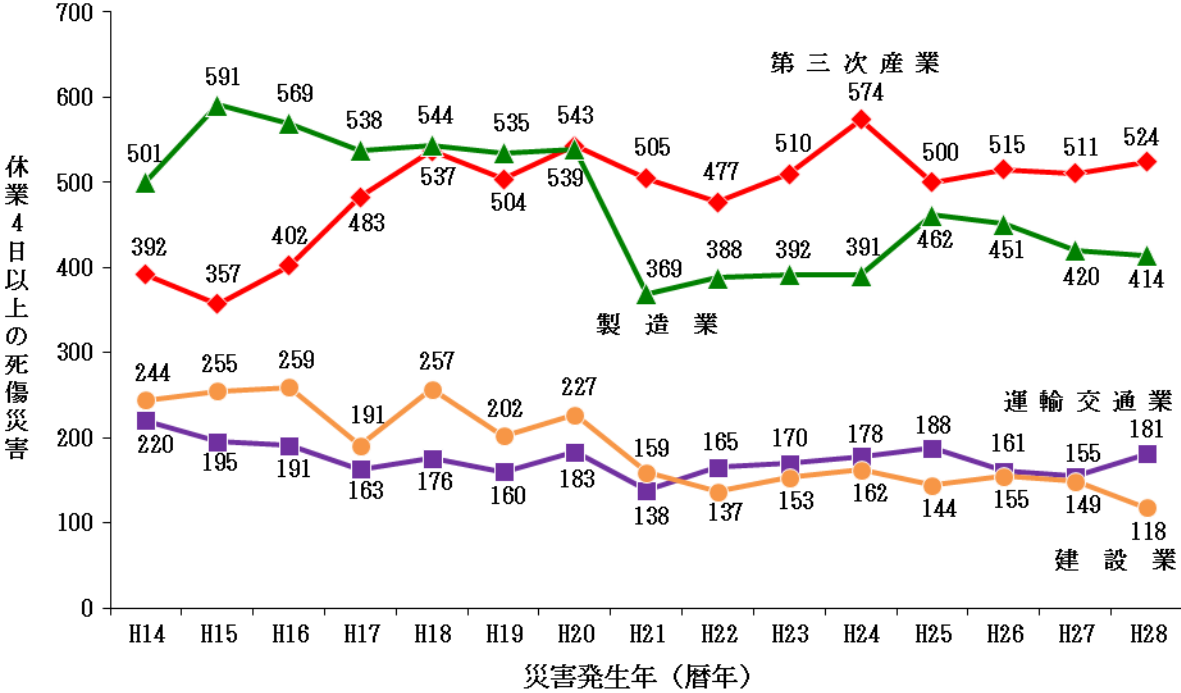
滋賀県内の労働災害による休業4日以上之死傷者数は、第1図に示すように、平成24年を起点として4年連続で減少し、平成28年の休業4日以上之死傷者数は、全産業で1,354人となり、前年に比べ5人(-0.4%)の減少となった。なお、4年連続の減少は17年ぶり。

業種ごとの内訳では、第2図に示すように、製造業が414人(前年比-1.4%)、建設業が118人(前年比-20.8%)と減少したが、運輸交通業が181人(前年比+16.8%)と大幅に増加し、第三次産業も524人(+2.5%)と増加した。

<第1図> 休業4日以上之死傷者数の推移(全産業、過去15年間)



<第2図> 休業4日以上之死傷者数の推移(業種別、過去15年間)

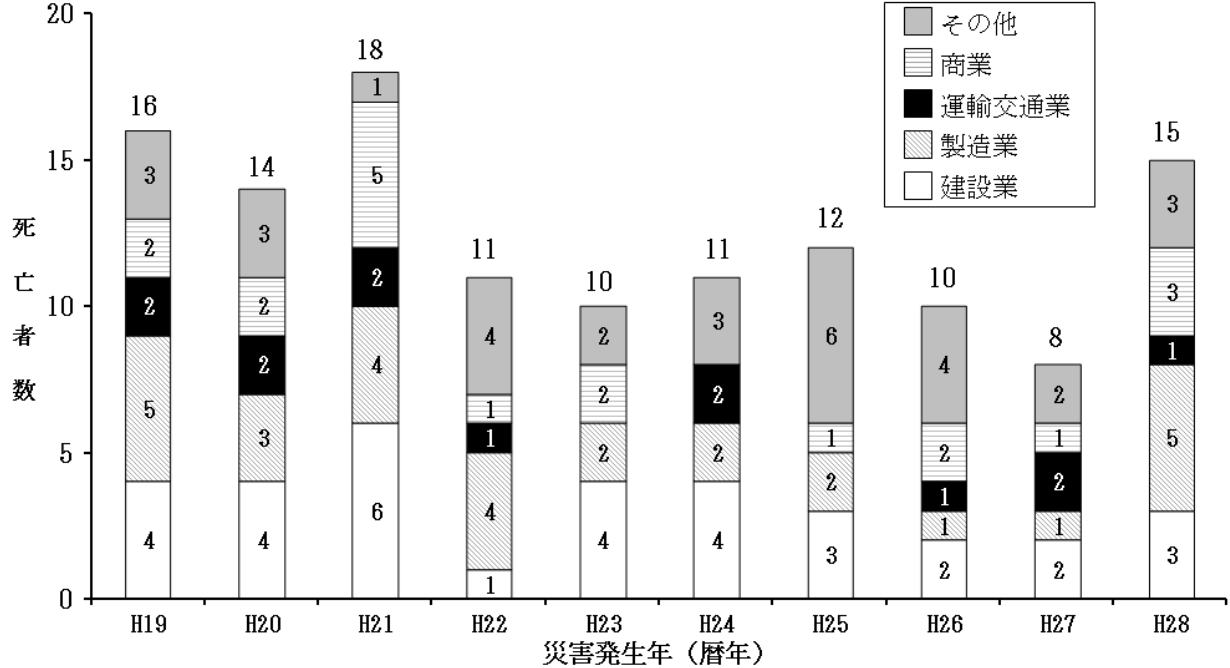


② 死亡災害発生状況

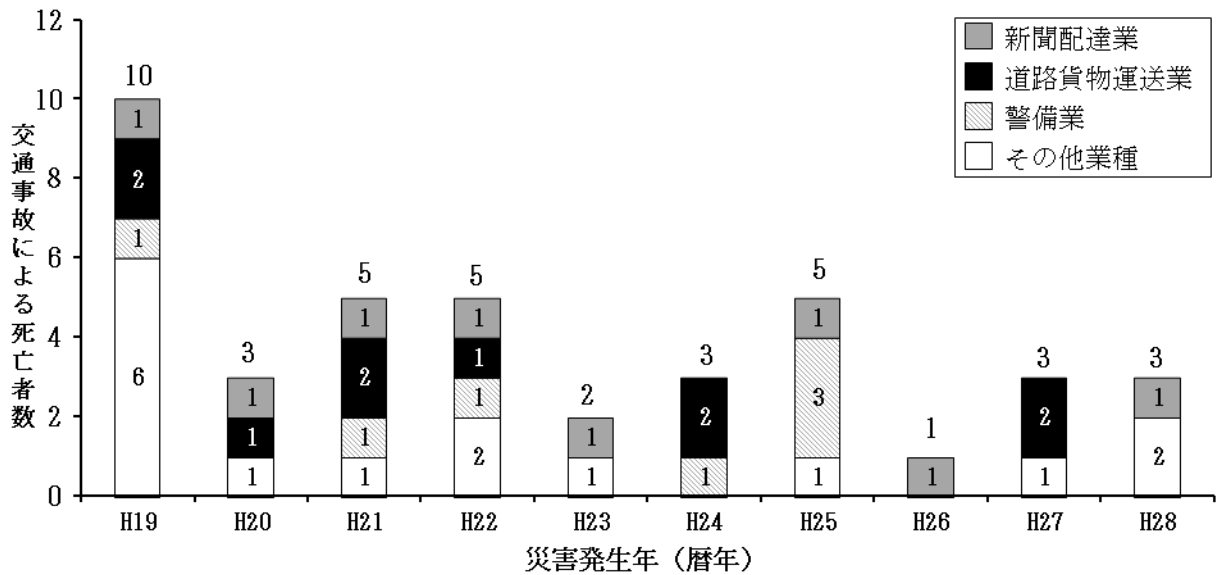
死亡災害は第3図に示すように、近年は比較的低い水準で推移していたが、平成28年は15人と、過去最少となった前年から大幅に増加した。

交通事故による死亡者数は、第4図に示すように3人で、前年と同数であった。

<第3図> 死亡者数の推移（過去10年間）



<第4図> 交通事故による死亡者数の推移（過去10年間）

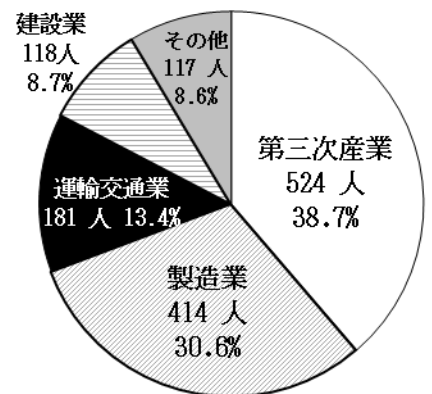


2 業種別の発生状況（平成28年）

① 休業4日以上の死傷者数は、第5図に示すように、第三次産業の占める割合が38.7%と最も高く、次いで、製造業(30.6%)、運輸交通業(13.4%)、建設業(8.7%)が多くを占める。

第三次産業の内訳は、524人中、商業(187人)、接客娯楽業(99人)、社会福祉施設(90人)、清掃業(51人)などである。

② 死亡者数は、第3図に示すように、製造業が5人と最も多く、最近数年間の水準から大きく増加した。建設業、商業でも3人と増加しており、運輸交通業が1人、その他の業種が3人(清掃業2人、接客娯楽業1人)となった。

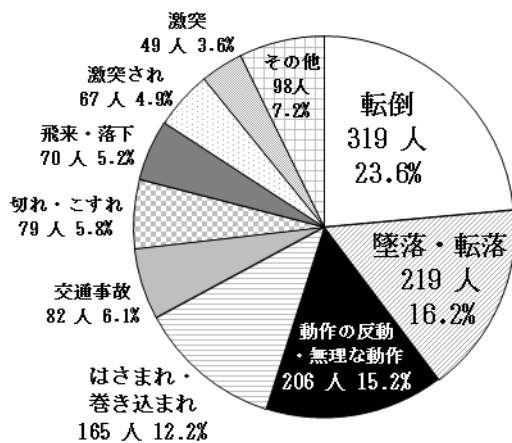


<第5図> 業種別死傷災害全産業 1,354人

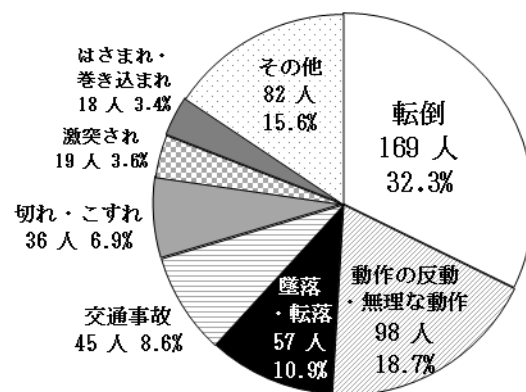
3 事故の型別の発生状況（平成 28 年）

- ① 全産業の死傷者数を事故の型別で見ると、第 6 図に示すように「転倒」が 23.6%と最も多く、次いで「墜落・転落」が 16.2%、「動作の反動・無理な動作」が 15.2%、の順で発生している。
- ② 事故の型別の死傷者数を業種別にみると、第三次産業では「転倒」が 32.3%と最も多く、次いで「動作の反動・無理な動作」が 18.7%、「墜落・転落」が 10.9%の順で発生している。
 製造業では「はさまれ・巻き込まれ」が 24.6%と最も多く、次いで、「転倒」が 23.2%、「動作の反動・無理な動作」が 13.3%の順で発生している。
 運輸交通業では「墜落・転落」が 28.7%と最も多く、次いで「動作の反動・無理な動作」が 17.7%、「転倒」が 16.0%の順に発生しており、「交通事故」の割合は 10.5%にとどまっている。
 建設業では「墜落・転落」が 33.9%と最も多く、次いで「はさまれ・巻き込まれ」が 14.4%、「飛来・落下」が 13.6%の順で発生している。

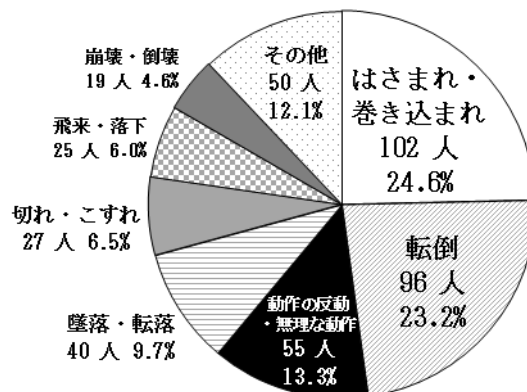
<第 6 図> 事故の型別死傷災害



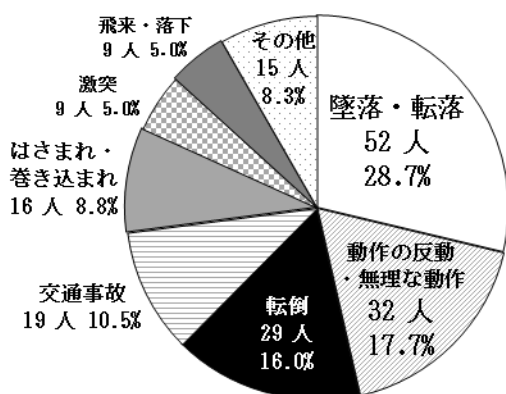
全産業 1,354人



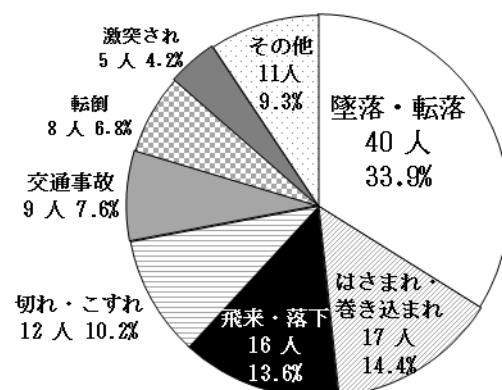
第三次産業 524人



製造業 414人



運輸交通業 181人

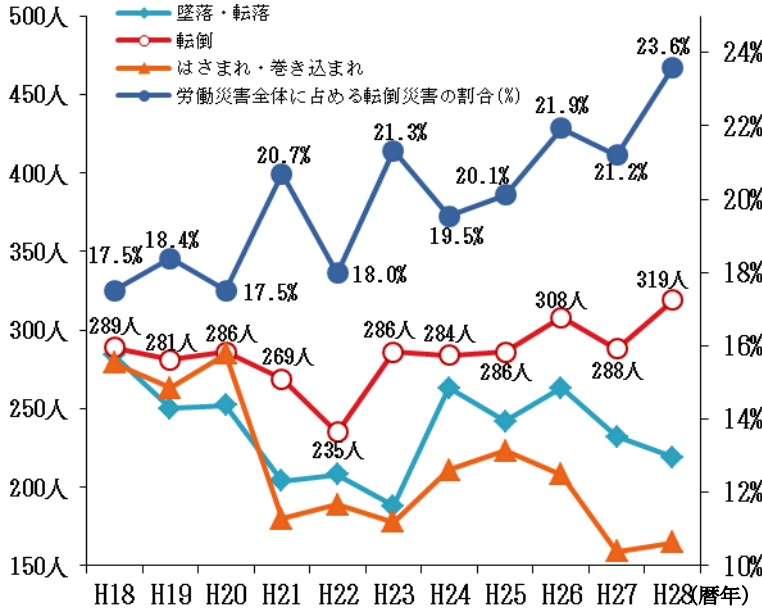


建設業 118人

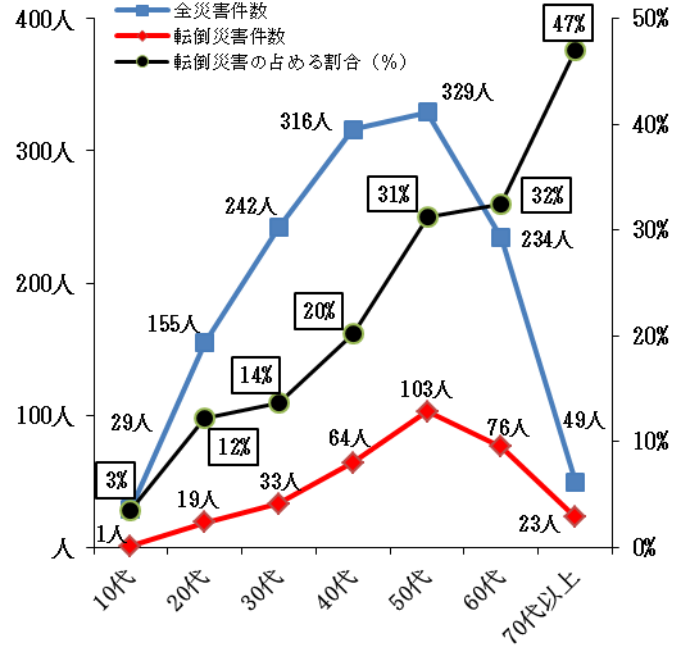
- ③ 死亡災害の事故の型別では、全数 15 人の内、「墜落・転落」が 6 人、「はさまれ・巻き込まれ」、「交通事故」が 3 人、「飛来・落下」、「崩壊・倒壊」「熱中症」が 1 人ずつ発生している。
- ④ 転倒災害件数は、第 7 図に示すように 319 件となり、労働災害全体が減る中でも、就業者の高年齢化に伴い、依然として高止まりの状態となっている。労働災害全体に占める転倒災害の割合は、一貫して増加傾向であり、平成 28 年は 23.6%であった。

平成 28 年における転倒災害 319 件の年代別件数は、第 8 図に示すように、50 代が 103 人と最も多く、次いで 60 代が 76 人、40 代が 64 人となった。また、各年代の転倒災害の割合は、年齢を重ねるほど高くなる傾向にある。

<第 7 図> 転倒災害の件数と全体に占める割合



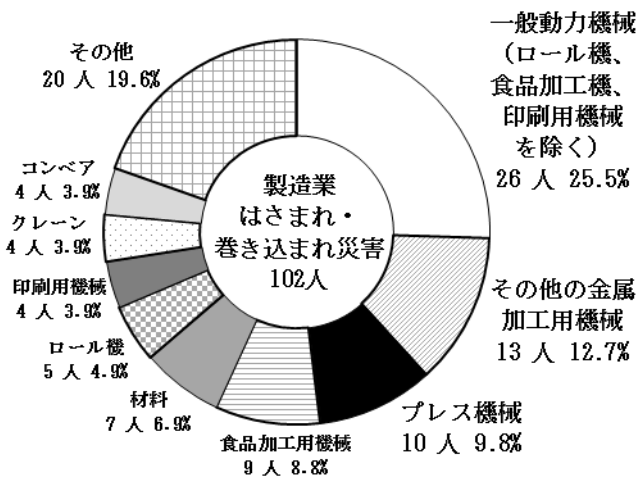
<第 8 図> 年代別災害件数と転倒災害の割合



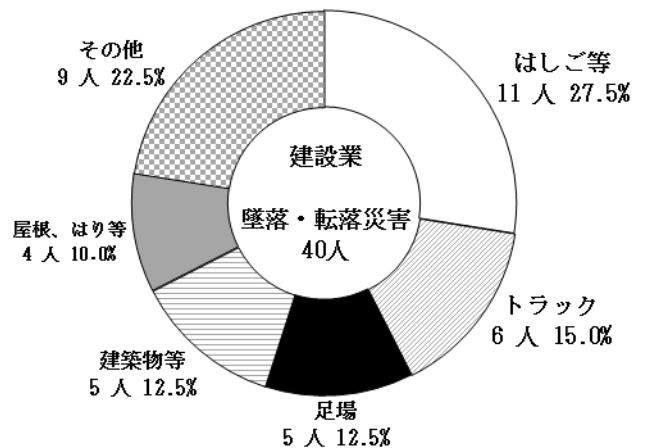
4 起因物別の発生状況 (平成 28 年)

- ① 製造業で最も死傷者数の多い「はさまれ・巻き込まれ」102 人を起因物別でみると、第 9 図に示すように「一般動力機械」が最も多く 25.5%を占めている。
- ② 建設業で最も死傷者数の多い「墜落・転落」40 人を起因物別でみると、第 10 図に示すように「はしご等」「トラック」が多く、「足場」「建設物等」を上回っている。

<第 9 図> 製造業における、「はさまれ・巻き込まれ」災害の起因物別内訳



<第 10 図> 建設業における「墜落・転落災害」の起因物別内訳



* 休業 4 日以上死傷災害は「労働者死傷病報告」、死亡災害は「死亡災害報告」による。